

園長先生の子育てひろば

令和8年5月

何事も「いつのまにか」

園長 堀田あけみ

子どもを育てていると、次々と問題が発生します。いつ解決するんだろう、これ、と言うような。それが解決するタイミングは「いつのまにか」です。

私が「いつ解決するの？」と初めて向き合ったのは、長男が生まれて3週間くらい経った頃でした。早い。彼は予定より3週間ほど早く生まれました。そして、とても静かな新生児でした。少しぐずっても、授乳すれば静かになるし、寝ている時間が長い。これなら子育て楽勝だと思ったものです。まあ、そう上手くはいかないことは、子育て中の方なら周知のことで。平穏が破れたのが生後3週間めです。

それまで、みーみー泣いていたのが、いきなり、ふんぎゃあつ！と大声を出し、何かと思ったらそれ以降、やたらと声を張り上げては泣き、全然寝ない。ちょうど予定日だったので、何、この子、もしかして今までお腹の中のつもりで生きてた？ と思ったものです。それすらも、まだ余裕があったればこそで、泣き止むのは寝てる時と抱っこされてるときだけ、が続けば当然、体力はあつという間に底を突き、「いつまで続くんだろう、これ」が始まります。永遠に、ではない。外に出れば、普通に子どもが泣かないで歩いているから。そのとき私が頼ったのは、夫が買ってきた「ひよこクラブ」で生後0ヶ月から満3歳までの子どもを並べた記事を見て「まあ、半年くらいしたら…」「だとしたら、5ヶ月我慢したら…」「いや、ながっ！」と一人で悶絶しているうちに、また泣き出す、というのを延々繰り返していました。でも、寝る時間が24時間周期で安定してきて、一人で起きていることもときにはできるようになり、座った状態で玩具での一人遊びもするようになりました。どうしたらそうなりますか、と言われても特に転機があったわけではないので、答えられません。「いつのまにか」そうなっていました。

以後も問題は次々やってきました。例えば次男のトイレトレーニング。どうにも自分でトイレに行けると言うイメージが作れないまま、入園の日が近づいてきます。でも一度成功したのをきっかけに、普通に行けるようになりました。何枚も買ったトレーニングパンツも、ほとんど未使用でトイレ掃除用の雑巾に転用です。長年は年中の中頃から、幼稚園には行くものの、集団に入ることができなくなりました。以前はできていたことができなくなるのは、親としては余計に堪えます。以前は、いつまでも友達と走り回っていて、帰らせるのに苦労したほどの園庭からも、そそくさと帰ります。早く卒園したいと思いました。以前の彼に戻す方法がわからなかったから。前は楽しく遊んでいたのに、今はそうじゃない園児の親でいるなら、最初から馴染めない小学生として仕切り直したい。でも、これもやっぱり、いつのまにか戻っていたんですね。「まだ帰りたくない」と半年ぶりに聞きながら、あの時間はなんだったんだろうと思いました。でもきっと、彼の成長には必要な時間であることは間違いないと今も思っています。

子どもがお腹にいる頃は、出てきてくれたら楽になると思っていました。歩けるようになったら、自分の言葉で意思を表現できるようになったら。きつともっと楽になるという期待は裏切られ続け、成長につれて問題は深くなる一方です。でも、毎日起こる問題に、真摯に向かい合っているうちに、気がつくと大人と大人として、親子の付き合いをできるようになっていきます。いろいろな1日を重ねて、いつのまにか。